

線系之卷

坤

和装本

ケ 5

44

86





大坪本流傳系之卷

○ 廣秀ノ曰 專ノ後リハ凡四寸ノ物也 後リ長キ  
モ思敷亦後リ短キモ猶思敷也

○ 永幸ノ曰 專ノ鏡ハイカリタルニ徳多し 行口馬  
惣而口強キニ用テハ辟口能知リ物也

○ 国忠ノ曰 細鑢ハ專ノ惣射ソ重ク大キ鑢ハ  
專ノ惣射輕キソ可トス 十文字ノ横金ハ必

○ し上リタル專ソ吉ト云ヘリ



- 秀乃曰專ハ重キ輕キニ批判ナシテ幸ノ云居口ニモ弱口ニモ重キ專可也秀乃曰專ノ鑿ハ四角成カ吉リ時角ノ口ニ常ルニヨリ馬随フ幸ノ云鑿ハ九キカ可也四角成ハ年當ル時ハ痛ス九キハ何方モ角成故ニ可也秀乃專ノ鑿計ニ金ヲ入テエ也
- 秀乃曰新ノ寸ヲ可知夏笠懸ト常ノ新ノ寸六寸大足物具足ニ善シテノ時ハ四寸但シ

- 肥丸ノハ五分一寸ノ遠有也一寸ノ取樣ハ左右ノ鑿ヲ踏テ爪立ハカラス片ノ洞ニ取不取方ノ寸ニ寸ヲ取ヘシ取所蟻ノ登後トノ取トノ間也六寸ヲ法ノ新ト云
- 新ハ寸六寸八寸ニ過ヘカラス但シ八寸ハ人前ニテノ新也短ケレハ膝口開キ氣形宜レキ物也
- 腹帯レメ樣ノ夏過物ハ強クレメテ履

帯ニカ出テ痛故ニ驛ル也人指及緩々ト  
入程ニシメヘシ大過物ニハ強クシメテモ能哉  
馬ニヨルヘシ強クシメテハ息ヲツキ重而  
悪敷夏有

○ 手綱取様ノ夏違手ニ取大指ニ掛小指ノ  
外工出ス也内藤左金吾ハ小指ト中指ノ間  
ヨリ手綱ヲ出シ大指ニ掛タル手廻ノ末計  
ヲ小指ノ外へ出ス也秀ノ白指六ツトモ有

物ナラハモヒリツモ掛タキニ指一ツ残ス夏  
心得難シト云ヘリ

○ 秀ノ曰手廻ノ引相ニ大夏有強キハ馬キカ如  
シ弱キハ強キカ如シト云夏誠ニ能可知也彼過  
タル馬ヲ強ク乗ント思フテ手綱ヲ誥テ  
如何ニモ引付テ乗ハ手疲レ身モ草臥ル  
故ニ馬添餘ル間強キモ弱キカ如シ過タル  
馬ヲハ手綱ヲ長々ト取テ弱々ト引相テ

馬ノカニテ乗時ハ弱テモ強キ理也然レ亦  
馬ニヨリテ手綱ヲ取テ引テ能事モ  
有口弱クシテ足ノアマリタル馬ノ免セハ  
走ル馬アトクハ手綱ヲ誥テ手ノ内ヲ  
強ク乗テ可也

○ 秀ノ曰ク手綱ノ長短之事馬驛ル時取タル  
手綱静マル時延ル也馬ハ乗シ静マラント  
スレト手綱右ノ促ナレハ口誥ラシテ静

ル変ナレ馬ニ知セズ手促シ取延ハレ

○ 鞞心得ノ変秀ノ曰鞞ハ先立方ニ乗渡ツテ後  
能諸々ノ馬ニ可應也反馬揚ク馬ニハ前輪  
ニ乗懸リ強ク敷テ手綱下テ下口ヲ可乗  
蹠馬頭下ル馬ハ後輪ニ乗上口ヲ乗ヘシ  
同鞞ニ四節ト云変ト口ヲ引ニハ後輪ニ乗用  
ノ口ヲ引ニハ中ノ鞞ニ乗リ方ノ身ヲ同  
ク也下口ヲ引ニハ前輪ニ懸ル也氣ノ口

ツリニハ鞆坪ニ乗ヘシ

○ 秀ノ白鞆ニ十五ノ巾テ有行真草ノ鞆ニ左  
右ノ居木ノ合テ五ツノ鞆ト云也行ノ鞆  
ニ三ツノ品有真ノ鞆ニ三ツノ品有草ノ鞆ニ  
ニツノ品有左居木ニ三ツノ品右ノ居木ニ三  
ツノ品有是ヲ指テ鞆ノ上十五ノ乗様ト  
云也口傳

○ 籠踏撮ノ躰跟ヲ舌崎ヨリ出ス様ニ踏大指

ニテ外ノ柳堂ヲ粹シ跟ハ籠ノ舌崎中體  
ニ在リ足秀ノ踏様也亦何レトレテ跟ヲ  
舌崎ヨリ外ニ踏出サレシ躰モ有籠ニ起  
臥ト云躰起トハ籠ノ鼻ヲ踏用キ跟ニテ  
馬ヲ粹ムヲ云臥トハ籠ノ鼻ヲ用カス  
テ馬ニ添テ粹ムヲ云  
○ 秀ノ白籠ヲ透テ踏躰有過物ヲ乗ニハ左  
ヲ前ニ踏出シ右ヲ後ニ

テ踏ハ鞞下強キ故ニ馬餘ル莫クナシ

○ 秀ノ曰鐘ニハツノ居ト云莫ク一息ノ所合  
テ當ル莫ク二行又馬ヲ左ノ鐘ヲ反レ右  
ノ鐘ニテ當ル莫ク三一多クシ留ル時

反レテ碎ム事多ク四悍ノ馬ヲ暗レ成所  
ニテ棄時前輪ニ懸リテ鐘ヲ踏流シ馬  
ニ利ヲカセサル莫ク五狩場杯ニテ物  
射ル時馬出スニ鐘ヲ合テ出ス莫ク殘ル三

ツノ鐘ハ口傳

○ 秀ノ曰鞭ニセツノ坎多ク有る一キ様ニ持テ  
キス鞭ノ事多ク二行ス所ニテキ鞭ノ事  
多ク三平身テ出ル馬ノ耳同クキテ強ク  
留ル事多ク四物ニ氣死悲タル所ヲ強ク  
キハ心付テ直ル事多ク五人前ニ人ノ心ヲ  
忍テキ事多ク六手綱ニ持レテ卒死入馬ヲ  
卒死ル方ヲキハ直ル莫ク七廻ラヌ馬ヲ

鞭ヲ捲リテ猪羽ノ程クテ事

○ 秀ノ曰鞭ハ一寸ヨリ一丈五尺ニ至也 金ニテ

モホノ端ニテ一寸在ハ鞭也 依縁也 トモ

細尾也 トモ一寸在ハ手綱成ヘシ

○ 幸ノ曰鞭計カ鞭ニ爪ス書手綱鞞鑿皆ク

鞭ト可心得亦鞭書鞞鑿迄モ手綱凡云

也

○ 秀ノ曰鞭手綱ト云夏鞭ヲ知スレテ手

○ 細入難シ鞭ヲ以テ心ヲ 兼手綱ヲ以テ口

ヲ兼ト可知也

○ 幸ノ曰手綱ノ數凡八百八筋也 トイハ凡

右ノ數ニ不可限一貫同之ヲ纏ラ根トシテ

父母ノ手綱ニテ兼時ハ毎量ノ馬ニ亦毎

量ノ手綱有ヘシ

常術六ツ之大事

○ 第一 鞞立テ立サレ

口傳



○ 第二 鞞持テ挿サレ

口傳

○ 第三 鐘踏テ踏サレ

口傳

○ 第四 乘テ乗サレ

口傳

○ 第五 引テ引サレ

口傳

○ 第六 切テ切サレ

口傳

○ 右ノ理納得可有馬ニヨル手綱時ニ隨フ  
手綱ト可知也

○ 幸ノ曰ハレテ刀サレ鞞立テ立サレ鐘

○ ツ踏テ踏サレト先師ヨリ口傳ニ教レハ秘

○ 而ノ儀也口ハ引時モ有引カヌ時モ有馬

○ ニカ貝テ引スル事モ有鞞立ハ遺物ニスル但

○ シ馬ニヨリテ静ナル事モ有楯駢ル事モ

○ 有鐘ハ強ク踏ヘカラス鞭下浮キテ悪シ

○ 亦強ク踏時モ有馬ニヨルハレ

○ 武藏野ヲ小庭テ乗変

口傳

○ 小庭ヲ武藏野ニ乗変

口傳

- 内ノ輪外ノ輪ト云々 口傳
- 習ハヌ事シ馬間事 口傳
- 透心ノ諸心ト云々 口傳
- 至心ノ相心ト云々 口傳
- 輪ニテ直ラヌ馬ハ山ニテ直スヘシ
- 山ニテ直ラヌ馬ハ川ニテ直スヘシ
- 川ニテ直ラヌ馬ハ沼ニテ直スヘシ
- 沼ニテ直ラヌ馬ハ繩ニテ直スヘシ

右之心得肝要也 全々口傳有之

當派宗師

日本武尊

迦東流

貞純親王

唐嶋流

八幡太郎

六條判官

為義

大坪流

湯山入道中原

玄性

大坪式部大輔

康秀

村上加賀守

永幸

有藤備前守

国忠

有藤守藝守

好玄

有藤備後守

忠玄

有藤有学頭

辰造

丹別位信慶坊

大坪本派

有藤永馬

辰光

有藤主税

定易

久保田宗頼

弘道

明和六己丑歲

正月十五日

久保田多忠

藤原公隆

正

与谷水、中殿

11 正 上中中

11 正 上中中

11 正 上中中

